

研 究 主 題

自分・学校・地域に誇りをもつ子どもの育成

～郷土の人・自然・ものとのかかわり合いを通して～

主題設定の理由

総合的な学習では、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしている。また、学び方やものの考え方を身につけ、自己の生き方を考えることができるようにすることをめざしている。

本校は、周囲を山々に囲まれ、豊かな自然、古代からの歴史と伝統・文化が息づく、落ち着いた環境にある。また、「子どもは地域の宝」として、地域からの学校に対する協力・支援体制は整っている。秋祭りでは古くから継承されてきた「山野神儀」を引き継ぎ、毎年4年生以上の児童がそれを八幡神社に奉納している。また、「ほたるかご」や「しめ縄作り」「昔の遊び道具の作り方」を地域の方から教えていただく等、児童は地域に伝わる伝統・文化を学ぶ機会に十分恵まれている。しかし、児童はこうした伝統・文化にふれる機会が多いものの、それらを継承する意義や、地域の方々の願いについて、自己の生き方とのかかわりで考えるまでにはいたっていない。

そこで、地域の自然や人々の暮らし、伝統と文化について探究的に学習させることを通して、お互いに考えや意見を出し合わせながら協同的に学ばせ、自分の地域のよさに気づかせたいと考えた。そして、地域への誇りと愛着、さらに、そこで学び成長している自分自身への誇りを育みたいと考え、本研究主題「自分・学校・地域に誇りをもつ子どもの育成～郷土の人・自然・ものとのかかわり合いを通して～」を設定した。

研究の目標

自分と地域の歴史、伝統・文化、地域の人々や事象とのかかわりについて探究することを通して、総合的に追究する方法を身につけ、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決するとともに、地域と地域に生きる人々に対し、尊敬する心と誇りを持ち、自分と地域のこれからについて考え、よりよい生活を創りだそうとする。

地域の教材化について

ここ「山野」には、豊かな自然がある。そして、その豊かな自然の中で育まれた伝統や文化があり、現在まで大切に受け継いできた人々の暮らしがある。子どもたちは、昨年度から行ってきた地域学習で、それまで当たり前とらえていた地域の特色を「他の地域にはない山野のよさ」と感じるようになってきた。そして、もっと知りたい、もっと知ってほしいと自ら地域を学ぶ姿勢が見られるようになってきた。しかし、自分たちが見つけた「山野のよさ」は、先人の知恵と努力によって守り伝えられてきたことに気づいたり、それを受け継いでほしいという地域の方々の願いを受け止めたりするまでにはいたっていない。

そこで、本年度は、昨年度の学習を基盤とし、さらに知りたい山野の史跡や山野の伝統を守ってきた先人たちに着目させ、自分たちの郷土「山野」とどうかかわっていくかを考えさせることで、目標とする児童の姿につなごうと考えた。

3・4年生は町探検を出発点として「昔の山野にタイムスリップ」という単元を設定した。学習を通して、自分たちの住んでいる山野の自慢を見つけ、その自慢を「かるた」にして伝える活動を構想している。そして、作成した「かるた」を発信することで児童の視野を広げ、「山野のよさ」を「自分の住んでいる山野のよさ」としてとらえさせ、自分と地域のかかわりを考えさせることにつないでいくことをねらいとしている。

5・6年生は昨年度行った「山野元気UPプラン」を継続し、山野を元気にするための「山野元気UPプランⅡ」を設定した。もっと知りたい山野の歴史、山野の伝統や文化とそれらの継承に力を注ぐ人々に焦点をあて、学習内容を設定している。友だちと意見を出し合わせながら山野を元気にする3つのプラン（地域の伝統行事・地域学習・学校行事）の学習を進め、自ら地域へ動きかけることの意義に気づかせ、山野のこれからと自分の生き方を見つめた未来設計図を描かせることを通し研究主題へ迫ろうと考える。